



その名の通り、支店発信の情報を紹介するコーナー☆各支店の広報委員が、身近な出来事をお伝えします。皆さまからのホットな情報もお待ちしておりますので、最寄りの支店へご連絡ください。



**フレッシュミズ講習会で交流**

女性部常盤支部フレッシュミズ（米村晶子代表）は11月26日、常盤基幹支店で手芸講習会と料理講習会を開きました。  
8人が参加した手芸講習会では、手芸が得意な工藤順子さんを講師に、モミの枝先をくっつけて輪の形にし、松ぼっくりやユーカリの葉などを色とりどりに飾ったクリスマスリースを作りました。  
6人が参加した料理講習会では、Aコープ商品の「もち麦」を使ったミネストローネや「塩麴」を使った鶏ハム、にんじんしりしりなど簡単な料理法を学びました。



**ソバ栽培挑戦**

尾上地区青年部（白戸雅幸部長）は今年ソバの栽培に挑戦しました。同部員のほ場8㍓で栽培しました。  
当青年部では、平成28年の農協まつりで来場者に部員が栽培した枝豆を振る舞って好評だったため、「次はソバを振る舞いたい」との思いから栽培に挑戦しました。  
10月中旬に収穫後乾燥させ、12月1日に棒でたたいて脱穀しました。ソバの収穫量は少量でしたが、当青年部では新しいことに常に挑戦していきます。



**ベトナム団りんごセンター訪問**

黒石中央りんごセンターにベトナムのトゥエンクアン省から県知事に当たるファム・ミン・ファン委員長や輸入業者など23人が訪れました。  
訪問団は、りんご輸出対応などを熱心に視察していました。「ベトナムでの日本の農産物の評価は、食の安全・安心が保証されて、品質が高く食べてもおいしいので高評価。人気も高い」と輸入業者の方は話しました。  
ファム委員長は「ベトナムで青森県産のりんごを宣伝していきたい」と話しました。



**食育熱心に**

板柳町主催の「りんごの里いたやなぎ食&農フェスタ2017」が11月23日、多目的ホールあぶるで開かれました。  
女性部板柳支部（齋藤聖子支部長）は、子どもたちにご飯のおいしさを楽しんでもらうため、青天の霹靂を使用したおにぎり講習会を行いました。これからもいろんなところで、ご飯の魅力を伝えていく予定です。特産品のりんごを使ったお菓子「タルトタン」など多彩な催しが行われ、多くの町民でにぎわいました。



**ぶどう「スチューベン」出荷最盛**

石川販売センターで、ぶどう「スチューベン」の出荷が12月上旬、最盛期を迎えました。  
石川地区ぶどう生産部会員は、一日あたり500～700箱（1箱2㍓）を箱詰めし、年末までに関東地方を中心に約1万7000箱を出荷します。  
同地区の平成29年の生産量は、昨年より2割少ない4400箱（1箱約8㍓）が入庫。りんごの冷蔵技術を活かして、他県産品との競合をさけて10月下旬から出荷しています。一定期間冷蔵貯蔵することで糖度が増し、22～23度と抜群の甘さです。



**年金友の会交流楽しむ**

田舎館地区年金友の会は11月29日、新安比温泉清流閣で交流会を開き、当地区の会員100人が参加しました。  
同交流会は、JAへ年金振替口座を指定している方を対象とし、日頃の感謝を込めて行っています。ゆっくり温泉に入り、おいしい料理を食べながら中川愛子さんの民謡漫談やカラオケ大会で大いに盛り上がり楽しみました。  
年金友の会の交流会の様子は、田舎館基幹支店内の特設コーナーに写真を掲示しています。12月いっぱいまで掲示していますので、お越しの際はご覧ください。



**厳しい年を振り返り 来年がんばろう**

南八甲田高原野菜生産組合（谷川強組合長）は11月14日、アップルランドで販売反省会を開き、生産者や市場関係者、JA関係者ら約70人が出席しました。  
今年度は7月下旬大雨被害を受け、生産量や不安定な品質などで出荷が減少。また他県産が潤沢なため、販売金額は主力の大根、人参、こかぶをはじめ全体で4億5200万円となったことを報告しました。  
総会後の懇親会で充実した営農活動のため、次年度へ向けての関係機関と一体となり情報交換を行いました。